

4. 市場社会のイメージ

市場社会のプレイヤー

今回のキーワード

- ⊕ 市場
- ⊕ 自由・平等・私的所有

今回の課題

- ✓ 市場社会の独特な形成様式を明らかにする。
- ✓ どの人類社会でも共通な経済活動で明らかにされた概念が市場社会においてどのように実現され、またどのように実現されなかったのか。
 - ✓ 全体についてはグローバル性
 - ✓ 部分については個人の独立

今回の内容

1. 市場社会の構成要素としての商品交換
2. 全体としての市場社会

市場社会（はじめに）

- 市場社会としての現代社会
- 商品と貨幣がメインプレイヤー
- 社会的分業の高度な発達を前提
- 商品交換によって
 - グローバルな社会を形成
- ⊕ それと同時に
 - 独立した私人を実現

1. 商品交換

市場社会の構成部分

商品価値

- プレゼントではなく、等価のもの（＝価値の等しいもの）と引き換え
- 商品価値を決定するのは生産コスト

商品交換

- 社会的分業の実現
- 労働の内部の一契機が、しかし労働とは別のものとして、労働の外部で実現されたもの。

自由・平等・私的所有

- 商品交換の原理
 - ・ 自由
 - ・ 平等
 - ・ 私的所有
- 商品交換の当事者＝人格
 - ・ 自由・平等な私的所有者
 - ・ 自己責任
 - ・ 個人の自立

2. 市場社会

全体としてのそれ

市場社会とは？(1)

＝社会全体の経済活動が基本的に市場で行なわれているような社会
|| すなわち、社会的に生産されている富が基本的に市場で交換されているような社会
＝社会になった市場

市場社会とは？(2)

＝常に世界の至る所で行なわれ、網の目のように広がっている個別的商品交換の総体

- ・ 政治的社会（例：日本国）のような実体（領土・領海・領空、国民、国家）はない。
- ・ 実体がないのだから、——
 - 空間的な制約がない、地球規模の、グローバルな社会である。
 - 世界中で商品交換をやめると、直ちに消滅する。

前近代的共同体のメインの 経済活動

- 前近代的共同体においては、市場はあくまでも社会全体の物質代謝の補完部分だった。
- 社会全体の物質代謝の主要部分の中では個々の労働は直接的に社会的分業の一環をなしていた。

何故に交換をやめられないの？ (1)

- ∴商品生産関係が成立しているから
 - =社会的分業の中で私的労働と社会的労働とが分離しているから
 - ・交換関係は生産関係の結果であり、生産関係の一部である。
- とは言っても、生産において形成されている社会的分業は、交換において初めて実現される。
 - ・もし売れなかったら、私的労働が社会的分業の一環をなしていなかったということ。

何故に交換をやめられないの？ (2)

- 前近代的共同体においては、補完的市場で、たまたま余ったものを売り、どうしても入手できないものを買う、というのが基本だった。
- 現代市場社会においては、単に余ったものを売りに出すのではなく、社会的分業の中ですべての富がもともと市場向けに生産されている。
 - ・市場から買わないと生産も消費もできない。
 - ・市場に売らないと生産も消費もできない。

市場社会の生産モデル

- 野菜農家の場合、
純粋モデルにおいては——
 - ・自分が食べる野菜は？
 - 消費手段として市場で購買する。
 - ・自分が蒔く種は？
 - 生産手段として市場で購買する。
 - ・自分が生産した野菜は
 - すべて市場で販売する。

今回の結論

- ❖ 商品交換は自由・平等な私的所有者を生み出す。
- ❖ 商品交換のネットワークの総体が市場社会である。
- ❖ 市場社会において、労働による個人・社会形成が初めて実現された。しかし、それはまだ完全な実現ではない。